

申8号 2020年度年末手当に関する申し入れ 第2回交渉で満額回答を強く求める!!

【組合の主張】

- 夏季手当での同時要求について回答が示されなかったことに対して**組合員から不安、不満、不審の声が多く出されたことを踏まえ、どのように捉え受け止めているのか。**
- 夏季手当△102億円が上期コストダウン実績の3割を占めている。**経営努力でもっと社員還元ができたのではないのか。支払い能力は十分にあったはずだ。**
- あくまでもこの先の**企業経営、回復基調にある業績、労働組合との議論、組合員の声、生活実感、働きがい向上、社員・家族の幸福実現などをしっかり踏まえて決定していくものだ。**
- 月例経済報告では**景気は持ち直しの動きがみられるとされており、回復基調にある。懸念要素にはならない。**
- コストダウンを実践しているのは現場であり、**△335億円の業績は組合員が何かできるか考え実践している結果だ。**
- コストダウンばかり意識し、現場では委縮するような雰囲気が出ている。必要な部分にまで目が行き届いていない。
- 社債を発行しながら資金調達をしている厳しい状況と言うが、**返済できる体力があるからこの対応では済みか。**
- 要求に対して見れば、会社として現時点において**支払い能力は十分にありはずだ。**
- 業績が良くても悪くても**支給が抑えられるのは結局変わらなみじやみかという声を重く受け止めるべき。**組合員からの切実な声である。**満額回答すべきだ。**
- 3.3か月は過度な要求ではない。**赤字決算が続くとは思っていないし、出せる体力はある。年末手当の方が生活給の役割が大きい実態からすれば、**夏季手当を下回る要求にはならない。**
- コロナ感染リスクの中、努力してきていることは何ら状況が変わってない。一律10万円加給すべきだ。**ひがし労は誰一人として感染者を出していない。それは感染防止対策を積極的に実践してきていることも踏まえるべき。
- このような経営状況、決算状況を踏まえれば**成績率を適用すべきではない。**コロナの状況の中、必死になって奮闘していることに変わりはない。**成績率に反映する分を還元すべき。**回答ではしっかり加味を示すこと。

【会社の見解】

- ◆夏季手当の回答に対して肯定的に受け止める意見や**もっと支払えるという声があったことは承知している。**
- ◆**物件費が減らせないから人件費を減らすというような考え方はしていない。**支払えないことがないように厳しい状況の中で判断をしている。
- ◆業績予想から**第2四半期決算は確かに回復基調にあるが、業績予想は先行きの見通しが厳しい中での想定になることを念頭に置く必要がある。**比較して評価するものではなく、**赤字であることに変わりはない。**
- ◆**業績予想での人件費△304億円は機械的に算出している財務上の数値である。年末手当については不確定であり、会社の意思をあらかじめ示すものではない。**年末手当は、上半期の業績を踏まえつつ会社を取り巻くさまざまな情勢を勘案しながら、労働組合との議論を経て総合的に判断するものである。**業績予想に基づいて判断するものではない。**
- ◆**以前より景気は回復基調にあると認識しているが厳しい状況は変わらず、引き続き注視していく必要がある。**
- ◆**コストダウンを実際に計画し実施するのは社員であり、その努力のもと成し遂げられていると認識している。**一方で、厳しい状況のなか無理な判断をして持続的な発展ができないということでは元も子もない。
- ◆余裕を持って資金調達をしているので、**当面の資金繰りは心配ない状況**だが永遠に続けられるわけではない。
- ◆借金をして支払うことが**支払い能力**があるというとはそうではない。**会社の持続的な発展に繋がるかということ。**
- ◆業績や取り巻く社会状況を踏まえて総合判断するスタンスは変わらない。**業績が良いときに出し渋っている認識ではない。**先行き・足元の状況・中長期的な観点も考慮が必要。**世の中の水準から見ても低いとは思っていない。**
- ◆**0.3か月下げた要求は会社の厳しい業績を踏まえた要求であると認識している。**いずれにしても持続的な成長ということに資さなければ元も子もないので状況を踏まえて判断したい。
- ◆コロナが収束しない中、社会的使命を果たしていただいていることに御礼申し上げる。**会社発足以来の未曾有の厳しい状況ということも踏まえて判断したい。**
- ◆成績率は個人に対して判断していくものであるので、費用がどの程度かは持ち合わせていない。

今回も低額では生活できない！会社は満額回答すべきだ！